

第 65 回例会 (H31.3.13) 感想

「多職種による見える事例検討会」

出席者 102 名 再参加 80 名、初参加 22 名

アンケート回答 58 枚 (回答率 57%) ありがとうございました。

患者さんを支援していくうえで大切な情報の視点を学ぶことができた。(看護師)

1つ1つ、丁寧に状況を確認し、記入していく事で全体像がみえてくる様な気がしました。マップ使ってみようと思います。(看護師)

患者さんについてよく知っていないと、見え検のマップに記入することが出来ないように思えた。まずは、患者さんを知ることの大切さが大事だと判った。新しい把握方法を知ることが出来た。(薬剤師)

問題点を広く挙げ整理し、まとめプランを視覚的に進めていくやり方が分かりやすかった。ケアマネの方が患者情報を詳しく知っている事が素晴らしいと思いました。(医師)

色々な情報をもれなく収集することができ、良い手法だと思う反面、出てきた情報の量が多すぎて整理しきれないと感じた。(看護師)

訪問ヘルパーをしていると、困難な事例が多くあります。(認知症の母と精神疾患の息子など) その際に幅広い視点で情報を整理する手法として、もう少し深く学びたいと思いました。(訪問介護員)

マンネリ化の事例検討会ではなく、全員参加の検討会を体験でき参考になりました。(介護支援専門員)

他の職種からの問題に対する、自分にはない視点が新鮮だった患者への背景などを深く掘り下げられ、問題解決へ向けてのアプローチの仕方も新たな考え方ができる点が良かった。画一的ではなく、多様な支援の方向性を見出すことができる手法だと思った。(薬剤師)

見える事例検討会に初めての参加でしたが、とてもわかりやすく勉強になりました。見える形にすることで自分が把握している情報とそうではない情報が整理されることに気づきました。ありが

とうございました。今後事業所内で共有していきたいと思います。(介護支援専門員)

〈休憩後の検討〉の進め方に疑問を感じた。参加者からの質問が各自思いついた事をバラバラに発言があり、考えがまとまらない。さらにつつこんだ質問をしようとしても話題がそれてしまい深い議論に進まない。表面的に話が進んでしまう「各枝」ごとの深い議論が必要と思う。ポイントがぼやけてアクションプランがまとまらなかった。本人の思い・不安・希望・悲しみ・喜び、などが充分伝わって来なかった。全体的に第三者の目線には表面的な議論になってしまったのが残念でした。(医師)

楽しく事例検討会に参加させていただきました。見えやすいので整理しやすいと思います。初めてのやり方でしたが、事業所内でも行ってみようと思います。(介護支援専門員)

多職種が思った意見が出ることが良かったです。視点を变えることで、本人を多方面から見ることが出来る様に思いました。ただし、内容がぼやけている感じがして、つかめないところがありました。(介護支援専門員)

初めての方法での研修内容で発見がありました。(保健師)

“見え検マップ” というものを初めてみました。どのようにうめていくのか、興味をひかれました。本人の言葉を中心に、それをとりまくものをわかりやすく書いてあったと思います。問題解決の手法の1つとして、また、情報整理のツールとして、参考にさせていただきたいと思いました。(介護支援専門員)

米子での初開催、お疲れ様でした。積極的に意見が出やすい雰囲気になっていたと思います。(介護支援専門員)

文書で書くよりも、見え検することで分かりやすい、いかにアセスメントをしっかりとやらないとい

けないか改めて思った。いろいろな視点から意見をもらうことができ、自分の方向性も見えてくると思った。(介護支援専門員)

初めて「見える化」の大切さを認識出来た。多職種が気軽に意見を言える雰囲気づくりなどファシリテーターの役割が重要だと感じた。いつもと違う例会で楽しかったです。(OT)

色んな視点からの意見が聞けて問題解決の方法をいろいろと考える事ができた。自分もマップを使って整理をしていくのも1つの支援の過程の中で大切だと思った。(介護支援専門員)

一人の方に多職種の方が検討する事例を見学して感心しました。(歯科医師)

マップは色々な会議に活用できそうなので、自治会の講演会などで使いたいと思います。(薬剤師)

見える事例のマップで患者さんが何の問題もっていて、どう解決すべきなのかがとてもわかりやすかった。(学生)

多職種の視点からそれぞれが意見を出し合って、見え検マップとしてまとめていて、最終的に事例が見えやすいようになっていてとても良いものだと思います。また色々な意見があってこんな意見もあるんだと考えさせられました。(実習生)

1つの事例にこれだけ多くの人に関わっている話し合いに参加したことがなかったので、非常に刺激的だった。解決はなかなか難しく、患者さんの気持ちを第一に考えるべきだと感じた。包括支援センターの人はいろいろな人の意見を聞くことで頭を整理できるのだと感じた。(薬学部学生)

多職種との事例検討としては、見やすい事業所の中でもチームワークがとりにくくなってきて、個々が一生懸命業務をしている状況より閉鎖的になりがち。包括さんとの連絡会や、外部の研修に出て、話をする方が、ストレスを感じず、できる印象が日々仕事をしていても感じ、事業所内での事例検討よりは、多職種との交流の場にて話し合う方が楽に思った。進め方や質問の仕方とても勉強になった。安心して話せる環境が事業所にあるとなおいいが、無理な事業所なので、他事業所との事例検討会の場を設ける必要があると思

った。整理できていいけど、1つずつアクションを起こすのも、自分となるとちょっと構えてしまうなど・・・。ただ、1こずつ整理することを大切にしていきたい。法令や保険者が決めているルールを考えると、日頃の業務をこなすのに困ってしまう。(介護支援専門員)

初めて参加しました。事例を通じ勉強になりました。(介護支援専門員)

見え検マップのやり方の流れがわかってよかったです。課題抽出→アクションプランへの移行が少し難しそうに感じました。こうやってみると、医療(医師)の役割の範囲がすごく狭いですよね。患者さんの心理・社会・背景を把握しようとし、多職種と連携しようとする医師がまさに求められていると思います。(医師)

在宅での利用できるサービス、その人の生きてきた生活を活かすためのサービス、自治組織等の勉強不足だと感じました。認知症の人の意向の聞き取りなど難しいと思いますが、顔を見せ合い信頼でき、生活していける関係作りをしていきたいと思います。(PT)

1回の会議で多方面からの情報収集ができ、効率的であると感じた。一方で多量の情報の中で、解決すべき課題を見逃さないかファシリテーターの役割が重要だと感じた。(PT)

自分の事例と重ねて聞いていました。地域の民生委員さんなどとの連携を考えてみようと思いました。マップを使って自分の事例を入れてみたいと思いました。(介護支援専門員)

初めて参加させていただきましたが、どんどん意見が出てくるので良かったです。事実の確認ができていく感じが良かったです。(介護支援専門員)

多職種の視点の違いが分かったこと、見えない問題点の抽出ができること、良かったと思います。(薬剤師)

事例について、1つの視点にしばられることなく、様々な方面から改善策を出すことが出来ており、素晴らしいと思いました。見え検マップにより、1枚で同時に多くの情報がまとめ出していることで、問題点が把握しやすい。ぜひ、他の会でも利

用してみたいのですが、それができないのが残念です。(薬剤師)

情報の取り方、問題のとらえ方、どう関連づけて考えていく思考過程がわかりました。とても参考になりました。(看護師)

見える化することによって、自分の頭の中が整理できて、とても勉強になりました。ありがとうございました。(介護支援専門員)

情報をグループ化していくことで、情報の落としがない。何が問題かを把握することが必要。アクションプランのために、だれがどうするのかわかりやすかった。(看護師)

初めて「見え検」を体験できて問題点の上げ方や解決の手段の参考になりました。形式はいろいろあると思いますが、多職種での問題解決が進むツールとして利用できればと思います。(医師)

見え検マップにどのように情報を落とすのか興味があった。具体的な情報と意向の情報が入り乱れて、整理がしにくかった。まず、明らかな情報から意向へと移った方がわかりやすい。地域の課題を探す作業かと思っていたが、個別の事例だったので皆で考える必要があるのかと疑問に感じる。アクションプランからエコマップに落とす際、司令塔になる人が必要だと感じた。(介護支援専門員)

地域ケア会議に応用できる。わかりやすい。コーディネートの方が難しい。(ファシリテーターの力量) (PT)

支援を受ける方は千差万別。情報のとり方、アクションにたくさんの意見が飛び出してくることに集まって検討する頼もしさを感じた。自身の仕事や高齢者介護中の私的な部分で大いに参考になった。知識はあっても、問題にあたったときに考えが狭くなりがちなので、多職種での意見交換はよりよい問題解決を導けると思います。意見を出す人以外に見学者多数していることにびっくり(これだけ関心を寄せる人たちがいる!)でも、すごく良いことですね。(看護師)

新しい取り組みだったと思います。引き込まれました。ファシリテーターさんの進行が大変だと思

いました。(介護支援専門員)

初めて検討会に参加させて頂き勉強になりました。一言での質問でも良く参加しやすい検討会でした。アクションまでの道筋もわかりやすく、私が対応している件でも機会があれば検討してほしいと思いました。(介護支援専門員)

見え検マップは記入していくことで分かりやすくなり、また面白い検討会だなと思った。誰が何をするのかしっかり決めていくので具体的な方向性が分かって良いと思った。(介護支援専門員)

患者さんの情報を多くの視点からみることで、問題点があげやすく改善点をみつけやすいと感じた。(薬局実習生)

マインドマップという手法は知っていましたが、患者様、利用者様でサポートする際に、問題点を整理・集約するのに役立つと感じました。文字ばかりの情報提供より、つながりが明確でわかりやすかったです。(薬剤師)

なかなか、マップに記入していくことさえ、選択を迷うところなどがあった。やはりファシリテーターの方の目線をもっと経験できたらと思う。ファシリテーターさんのように、うまくまとめなくても、具体的に書き出してみることで見えるものがあるのだと思いました。ありがとうございました。(看護師)

在宅支援するためには多面的に患者さん情報を集めて総括することの重要性を感じた。ご本人がどうしたいかどうなりたいかの聞き取りが最優先された方が良いと思った。その希望がかなわなくなる一番の問題解決についても検討すべきと思った。(その他)

スライドや資料をみながらの検討会より、何倍もわかりやすく、考えやすかったです。意見が出やすいようにファシリテーターの役割も重要と感じました。(PT)

初めて「見える化」というものを知りました。色々な問題が可視化されてよく分かった。(薬剤師)

マップをもとに、その方の情報を探ることができたので、とても勉強になりました。ファシリテ

ターの方の技術も勉強になりました。(その他)

実際の現場で活用していこうと思います。(看護師)

多方面の情報が見える化できる事で、まず一步のアクションについて整理できる方法、ファシリテーターのスキル(まとめや方向付)が必要とされる手法、勉強する事がどんどん増えます。(ST)

ファシリテーターの能力に関わっていると思った。最初にサービスの説明があっても良かったかも…。小規模多機能の役割、オレンジカフェとは?など意味を知らない参加者の方々もいたかも。包括支援センターの役割とかも、もしかしたら、曖昧だったのかも…。それを理解していくと もっと深く検討できるのかも。(保健師)

ファシリテーター役に研修をどのようにしたら受けられるのでしょうか。(介護支援専門員)

もれなく情報を集めて分析するツールとしては伝える。多くの職種の目を通して多面的にとらえ、それを共有することで同じ方向をむいたサービスにつなげることができる。欠点としては、時間がかかりすぎて実践的ではない。高齢者は刻々と変化していくことに十分対応できないと思った。(医師)

様々な情報が整理されて分かりやすかったが、時間の都合でやや未消化の様に感じました。ただ、本来の時間を考えてみると様々な見方をしていくことで問題解決の方法を見つけやすい最適な方法だと思いました。今回は見える側でしたが、ぜひ、参加してみたいです。アクションプランについても、参加者の共通認識があつたらもっと意見が出たのかな...という感じです。とても新鮮で楽しかったです。(?)

見え検マップはアセスメントの一種のような感じでとらえました。細かい部分まで関連づけて流れがみえるので、とてもわかりやすかったです。困難事例ほど多くの情報・柔軟な考えが必要なので、とても良いと思いました。(介護支援専門員)

見える化でよく見える事がわかりました。(歯科医師)

お疲れ様でした。いろいろな意見が出て参考になりました。(保健師)